

温かい雰囲気醸す市民の舞台

市民会館

音楽や演劇、講演会、研究会などの会場として皆さんに親しまれている市民会館。だれもが一度は訪れたことがあるのではないだろうか。

現在中島公園にある豊平館が、今の市民会館とNHKの場所（北一西一）にあった昭和二年、市民会館の前身の公会堂（二十三年に中央公民館、二十四年に市民会館と名称を変更）が豊平館の北側に増築される形で建てられました。

しかし舞台は狭く、防音も不完全な上、老朽化が進むと床を歩く足音も甲高くきしんで耳障りとなったため、三十一年に改築構想を持ち上がり、三十三年に豊平館を移築、旧市民会館を撤去した跡に新しい市民会館が完成し、七月一日にオープンしました。この会館の大ホールに入って一番先に目につくのは栗谷川健一さんデザインの大きなどん帳（ステージの幕）。これは五十二年に付け替えられた二代目で、初代のどん帳は長年親しまれた記念として、ミ

ニチュアになって、大ホールのロビーに展示されています。

この大ホールでは、カラヤンとベルリヤン・フィルなどの世界的な音楽家の演奏会や、文学座、俳優座などの

公演から、アマチュアコーラスの発表会まで、さまざまな活動に使われています。

現代的なコンサートホールのようにハイテクを使った設備はほとんどありませんが、昔ながらの落ちついたステージ空間は、歴史を経たものだけが持つ、重厚さと温かみがあります。これからも、数々の感動を呼ぶ演技や演奏が見られることでしょう。



昭和初期の札幌市公会堂（維新堂提供）

（平成七年十二月号・第二十六回）